

手をたずさえて

“富中PRIDE” ～自信と誇り～

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成30年7月12日(木)発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

3種目で東北大会出場決定！県の舞台での粘り強い走・跳・投 第61回福島県中学校体育大会兼第73回国民体育大会予選会 陸上競技 7/4(水)～6(金)

7月4日(水)～6日(金)の3日間にわたって、いわき陸上競技場において「第61回福島県中学校体育大会兼第73回国民体育大会予選会陸上競技大会」が開催されました。出場選手はもちろんサポートや応援の生徒達も、福島県という大きな舞台で心をひとつにして競技に臨みました。3種目で4位以内の入賞を果たし、東北大会出場を決めました。また、この大舞台で自己ベスト記録を出した生徒もいました。上位大会に出場する生徒、通信陸上等の他の大会にチャレンジする生徒、駅伝部員として練習に参加する生徒など、それぞれの目標となる大会に向けて、今後も自己ベスト記録の更新を目指し頑張ってほしいと思います。3日間、お疲れ様でした。



入賞者

【男子】

中学1年1500m **第3位** 増子風希 4' 34" 93 **【東北大会出場】**
 中学1・2年4×100mR **第4位** 48" 22 **【東北大会出場】**
 御代田友仁、根本寛大、坂梨陽哉、遠藤漣央

【女子】

中学2年100m **第5位** 高橋優佳 13" 15
 中学共通800m **第2位** 橋本暖亜 2' 18" 55 **【東北大会出場】**
 中学共通4×100mR **第8位** 52" 61
 藤田奈々花、高橋優佳、橋本暖亜、加藤杏実



上から800mの橋本さん、1500mの増子君、男子4×100mR

東北大会出場を決めた生徒達の抱負です。健闘を祈ります!!

- 7月4日からいわきで県大会が行われ、私は800mとリレーに出場しました。800mでは、予選で全国標準記録を狙いましたが、あと0.7秒届きませんでした。もうちょっとだったのに…と悔しい思いがあふれました。リレーでは、予選で51秒70のチーム自己ベストを出すことができました。レースの前に聞こえる富田中陸上部全員が一つになって行く応援は何よりの力になります。東北大会では、福島県代表として頑張り、28連覇を私達の手でつかみとりたいと思います。(橋本暖亜)
- 僕は初めての県大会に出場しました。県大会は市大会よりもレベルが高かったです。目標は優勝でしたが、3位という結果に終わりました。東北大会では、県大会と同じ目標で大会に挑んでいきたいです。タイムも県大会より速く走りたいです。(増子風希)
- 東北大会に出場するという機会は少ないので、大会ではチームベストの記録が出せるように、これからの練習に真面目に取り組んでいきたいです。(御代田友仁)
- 僕は県大会で低学年4×100mリレーに出場し、総合4位で東北大会に進むことができました。僕は二番目に走りました。今回の大会では、バトンをしっかりつなぐことができました。しかし、まだ確実につないでいるとは言えないので、東北大会までに確実にバトンパスができるようにたくさん練習して、大会ではしっかりバトンをつなぎたいです。また、学校の代表というだけでなく、県の代表として出場するという自覚をもって選手らしく行動したいと思います。(根本寛大)
- 僕は、男子低学年リレーに出場しました。「47秒を出して東北大会に行く」という目標で挑みました。47秒は出せなかったけれど、東北大会に行くことができたのでよかったです。予選であまりうまくいかなかったことも、その反省を生かして、決勝ではうまくできたのでよかったです。同じチームの先輩と友達と協力し、県で4位になれたのでよかったです。東北大会では、県大会のときにできなかったことなど、改善点を見つけ、今よりもさらにタイムを縮め、入賞できるように頑張ります。(坂梨陽哉)
- 初めての中体連で県大会に出場することができて、うれしかったです。100mではあと少しのところまで決勝に進めず、とても悔しかったけど、自己ベストを更新することができました。リレーでは、みんなで力を合わせてチームのベストタイムを更新し、総合4位で東北大会に出場することになりました。東北大会に向けて、バトンパスをすばやく正確にできるよう、しっかり練習に励みたいと思います。(遠藤漣央)

“命の大切さ”を深く重く感じ合うことができました！

1・3年生合同「命の大切さを学ぶ授業」 7/6(金)

7月6日(金)6校時には、1・3年生合同で「命の大切さを学ぶ授業」を実施しました。福島県警察本部警務部県民サービス課犯罪被害者支援室の三本ミチ様をはじめとする3名の方々をお招きし、命の大切さについてお話をさせていただきました。

初めに犯罪被害者や犯罪の発生状況についてのお話があり、交通事故で子どもを亡くした家族の話である「友達が被害者になったら」というDVDを視聴しました。DVD視聴から、二次的被害や被害者に対する偏見や思い込み等について考えることができました。

後半では、実際に小学1年生の娘さんを交通事故で亡くしたお母さんからのメッセージを本校の安齋先生が朗読しました。家族全員がそろって毎日が過ぎていくこと、当たり前のことではあるが、いかに幸せなことが、ということ強く感じることができました。

最後に代表生徒の3年吉成花音さんがお礼の言葉を自分の言葉でしっかりと述べました。事故や犯罪によってかけがえのない人を失ってしまった方々の思い、その答えは簡単なものではないと思います。命の大切さを深く重く感じ合うことのできた時間となりました。



私は「命の大切さを学ぶ授業」という講演会のお話を聞くことで、改めて「命の大切さ」について考えることができました。

「二次的被害」のビデオを観て、被害者は事故や事件の時だけ辛いのではなく、時間が過ぎてもふとした時に当時を思い出してしまい、とても辛い日々を過ごしていると感じました。私はこのような気持ちを実際に感じたことはありませんが、再現ビデオを自分に当てはめて考えてみると、すごく心が苦しかったです。そして、もし友達が苦しい思いをしていたら、私はどのような対応をすればいいのかと深く考えることができました。私のそばで苦しんでいる人がいたら、しっかりと話を聞き、気持ちを受け止めてあげたいです。

次に実際の被害者の手紙を聞くことができました。大切な家族を失ったことは心から一度も消えることはなく、ずっと苦しい思いをしていることや一つの命が失われることでたくさんの人の心が傷ついてしまうことに気づきました。

今回は、被害にあわれた方の「心の傷」の深さを知ることができ、「命の重さ」について考えさせられました。今こうやって何気なく生活しているのが当たり前ではなく、とても幸せであるということをお忘れずに、今まで以上に一日一日を大切に過ごしていきたいです。(1-3 菊池優菜)



皆さんは自分の命について考えたことはありますか？

私は「命の大切さを学ぶ授業」を受けるまでは、あまり関心がありませんでした。命について深く考えることもありませんでした。

しかし、この授業がきっかけで、考えたことが3つあります。

1つ目は、犯罪についてです。福島県警の方から、最初に1年間に起きる殺人事件の件数を教えていただきました。その件数は約900件です。その数に私は正直驚きました。1年間は365日しかないのに、それ以上の件数があるということは、1日に何件も殺人事件が起きているということになります。しかし、それだけではなく、その被害者の遺族の方々のことを考えると、900件では済まない私は考えました。授業が終わった今でも、私は憤りを感じています。

2つ目は、被害者の方についてです。授業では、「友達が被害者になったら」という題名のDVDを観ました。内容は、中学生の“ゆい”が事故で弟を亡くした“さやか”に対し、どう接すればいいのか、ということをお話形式で説明したものでした。このDVDは、登場人物に自分や友人を当てはめて観ることで、様々なことを考えさせられました。

3つ目は、これからについてです。私は、この授業で学んだことを早速家族に話しました。すると事件の件数などに驚きを感じているようでした。きっと、この件数や被害にあった人、その遺族のための支援室があることなど、知らない人も多いと思います。私は、今日学んだことを決して忘れず、より多くの人達に伝えていきたいと思いました。

最後になりますが、自分の胸にそっと手をあててみてください。鼓動を感じることでしょう。それこそが、“生きている”ということなのです。(3-4 吉成花音)